

なかたかなえ

今から2週間遡っての話です。

私の行っている就労センターで「企業がセンターに来て説明会を開催します。その際採用面接をセンターでして下さい。またこの企業に就職を考えていない方も希望者は模擬面接という実際の面接と同じ形で練習が可能です」と朝礼の時にスタッフから発表されました。(私の通所する日じゃないなあ。関係ないよなあ。) そう思いました。

その日面接シミュレーションといってセンターの授業で面接の練習がたまたまありました。凄く緊張したけれど紙に書いた自分の文章を読み上げるとスタッフが「凄く良かったですよ」と言ってくれて単純な私はとても嬉しくなり、気持ちが高揚した様に授業が終わった後、スタッフに「〇〇さん、私企業面接の模擬面接に参加します!」と言いました。何だか自分を信じてみたくなったのです。スタッフは驚いた感じで「分かりました。でも模擬面接が終わってガクンって力が抜けちゃわない様に無理しないでね」と言っていました。

数日後から履歴書作りが始まりました。履歴書作りは人生で初めてでした。しかも普通の履歴書とは少し違って障害についてや配慮して欲しいことなどを自分の言葉で書かなくてはいけないので少し難しく、何度も書いてスタッフに確認してもらい、決まった書き方をする欄は教えて貰いました。難しいと逃げたくなりました。明日でいいやとか、まだ時間あるから…とか怠け心は隙を見つけては私の心を行ったり来たりです。

これではいけないな。向き合わないかと思いきやシャープペンシルと履歴書と私はタッグを組むことになりました。埋めて埋めて空欄を埋めていくと心の錘(おもり)が一つ一つ外れます。それをボールペンでなぞり消しゴムで綺麗にし(消しゴムさんもシャープペンシルさんもボールペンさんも皆ありがとう)、センターでコピーを撮り、最後はスーツを着て証明写真を近所で撮りました。

スーツ姿で道を歩いていたら小学生の女の子に何故か「こんにちは」と挨拶されました。暑い日だったのでちゃんと上着を着て証明写真を撮ると汗だくになってしまいました。完成したのは企業との模擬面接の2日前です。

さて履歴書が出来たのは良かったのですが、私は急に不安で堪らなくなりました。周りはみんなセンターのスタッフと本番の就活に備えた模擬面接を日常的にやっていたのですが、私は何せ思い付きで参加したので経験がありません。怖くなりました。面接はボロボロかもしれない…そう思うと夜の睡眠が浅くなりました。気分も変になって来ました。今ならまだ間に合う。病気が悪化しては元も子もないじゃない。辞めようかな。そう本気で考え始めていました。でもなと思って何気無く私はCLの季刊誌をネットで読みました。レイノルズ先生の対談の記事を読んでいると本当にはっとしました。

—レイノルズ先生:断られるのを心配するのは立派です。試験の前に不安があるのは立派です。うまくいかない不安が湧いたらもっと恐れてください。医学生の手紙(略)一

これを読んで私は辞めようかなという選択肢を捨てました。

不安から逃げても経験する機会を失うだけで自分を強くはしてくれない。自分を弱くすることは自分に冷たくすることで、自分に厳しくすることはこれからの自分に満足感を与えることになるのでは?と考えたからです。不安があるのは成功したいからです。恐れを排除しようとして恐れていること自分を放棄することは自分を却って窮地に追い込む結果を生むだけです。

私は相変わらず眠りが浅いまま朝は起き、スーツを着てメイクをしてメガネをかけて履歴書の原本を封筒に入れてセンターに向かいました。

センターでスタッフと話していると「中田さん固いですよ!大丈夫大丈夫!いつもと同じで一」と笑

ってくれて心が落ち着きました。

午前中は会社説明会で午後一番で模擬面接でした。利用者はいっぺんに3人で面接だったのですが、「自己紹介をして下さい」といきなり言われると吃ってしまいました。が、その後は自分で思っていたよりずっと落ち着いて話せました。

最後に履歴書についての指摘の時に「中田さんの履歴書は特に直すところが見当たりませんね。良く書けているし」と2人の面接官の方が言って下さって本当に嬉しいなと思いました。

模擬面接が終わると精神的に物凄く心地良くスタッフにも「参加して良かったです！」と言いました。帰って母に模擬面接大丈夫だったよーと話していると会話が噛み合わず「どのスタッフに模擬面接してもらったの？」と聞かれて「企業の人だよ」と答えると母は、「は？何それ？」と。普通の面接の練習だと思っていたそうです。

レイノルズ先生、私により良い選択の取り方を教えて下さってありがとうございました。

蜜柑の木

うちの庭には蜜柑の木が居ます。私が生まれたときには既に庭に居たので私より長く生きています。蜜柑の木は夏になると実を付けるための花を咲かせます。そんな時蜜柑の木はひょっとしたら嬉しいかもしれません。喋らないだけで嬉しいかもしれないのです。でも蜜柑の木はそんなことは言いません。黙って太陽の日差しを浴びるだけでしょう。

蜜柑の木は秋になると実を付けます。私が小さな頃から私たち家族はその実をいただくために摘みます。そんな時蜜柑の木は痛くて悲しいかもしれません。喋らないだけで悲しいかもしれません。でも蜜柑の木は泣き言などは言いません。黙って雨をその身に受けるだけでしょう。

どんどんとどんどんと私は大人になりますが、蜜柑の木より私は年を上回ることはできません。でも蜜柑の木は威張ったりすることはありません。毎年美味しい蜜柑の実を付けるために庭に居てくれるのです。

洗濯物を庭で干していて、ポツリと蜜柑の木に「ありがとう」と言ってみたりします。言っても蜜柑の木は言葉で答えてくれることはないのですが伝えないより伝えた方が幾分かましだと思うのです。蜜柑の木は何も言わないけれどひょっとしたら微笑むような気持ちかもしれません。でも蜜柑の木はそんなことはしません。黙って水を吸うためにうちの庭に根を張るだけでしょう。

(千葉県千葉市CLインストラクター/小木晴代：相談室ベターデイズ h-ogis8docl@tbz.t-com.ne.jp)

 目次へ戻る

